

もんげー岡山!

## Material Factor I

### 岡山県の新設住宅および木軸住宅着工戸数

(参照: 国交省E-Stat・住宅産業新聞)

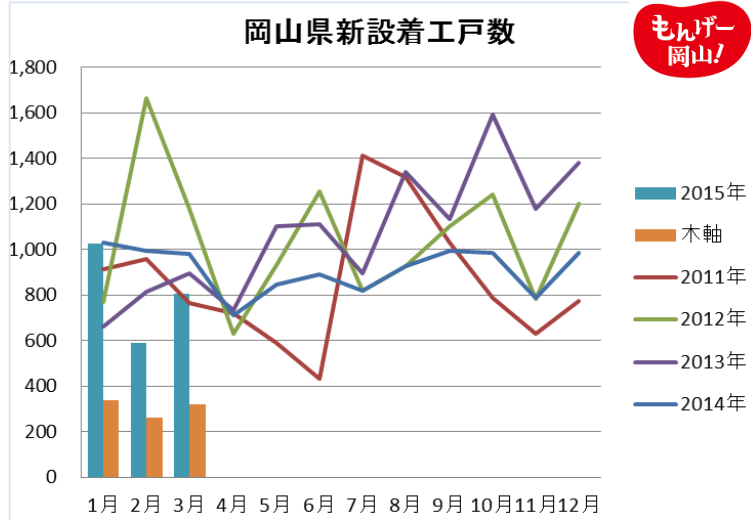
平成27年3月の木軸住宅着工戸数は 320戸

前年同月比 3.9%増

持家着工戸数 274戸

前年同月比 1.9%増

全国の木軸着工戸数は、1.8%減「持家」では、0.2%減消費増税の影響のなかったH25年3月比では約14%減となった。これは、「今年に入り家賃約6万円の賃貸に住む年収500万円前後の第一次取得層の住み替えの動きが、以前と比べ10%程度減ったことと連動している。」(市場アナリスト)という。「これらは株高の恩恵が購入費に及ばないこともあり、宅地価格の高止まりと進展する資材価格の上昇で、家を買えない層の影響は今後さらに顕在化してくる可能性がある」(同)



## Material Factor II

国土交通省が2015年度「地域型住宅グリーン化事業」でゼロエネ住宅(ZEH)に最大185万円補助の方針を示しました。

### 国土交通省方針概要

国土交通省が2015年度の事業に盛り込んだ「地域型住宅グリーン化事業」で中小工務店が建設するゼロエネルギー住宅(ZEH)に対し、1戸あたり最大185万円を補助する方針を示しました。

地域型住宅グリーン化事業は、地域材などの資源供給から設計、施工に至るまで関連事業者の連携体制により、地域における木造住宅の生産体制の強化を図るものです。

### 長寿型＝長期優良住宅

一戸あたり100万円上限(地域材使用の場合120万円上限)

### 高度省エネ型＝①ゼロエネルギー住宅 もしくは②認定低炭素住宅

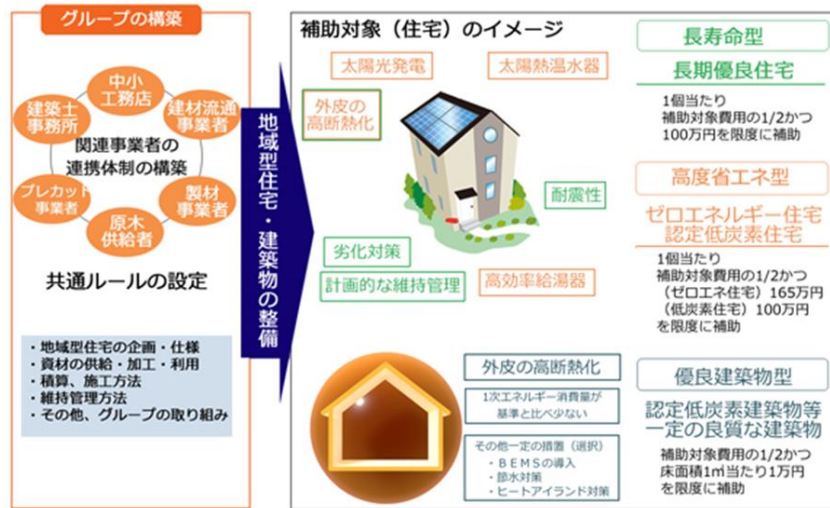
①一戸あたり165万円上限(地域材使用の場合185万円)

②一戸あたり100万円上限(地域材使用の場合120万円上限)

### 優良建築物型＝

地域性に配慮した木造の認定低炭素建築物(非住宅)

床面積1m2あたり1万円



地域型住宅グリーン化事業のイメージ

近い将来、省エネ基準を満たさない新築住宅が着工できない時代がやってくるようになります。

## Material Factor III

### 再生可能エネルギー2014国際会議より

#### 太陽熱利用の環境価値化に向けた研究活動について

- ◆低炭素社会の実現に向けて、ソーラーエネルギーと調和する住宅・建築物の普及を目指している。
- ◆太陽熱利用に関する課題の解決策を検討するため、5つの専門部会を設置。
- ◆普及政策部会の成果のうち、主に住宅への導入ポテンシャルとコスト分析による設置目標並びに今後、必要となる新たな機器認証・環境価値認証制度の方向性を報告。

#### 取り組み

- ・適正規模の国の導入補助の獲得。
- ・簡易計測・見なし計測に基づく環境価値認証制度等の検討。
- ・太陽熱の環境価値と信頼性の発信。
- ・産官学の連携のもとに、国や自治体の支援をいただきながら、太陽熱温水システム普及のV字回復を目指す。

### 戸建住宅への普及シナリオ

- メーカーのコストダウン努力と出荷台数増によるコスト低減を踏まえて、1/3のインシヤル補助を想定。
- メーカーのコストダウン努力と出荷台数増によるコスト低減を踏まえて、集熱面積1m2あたり3～1万円/m2のインシヤル補助を想定。
- メーカーのコストダウン努力と大量生産による大幅コスト低減を踏まえて、環境価値化によるランニング補助金を想定。

### 岡山県では

5月1日より家庭の省エネルギー化を進めるため、住宅に太陽熱温水器又は窓断熱設備を設置される方に、補助金を交付します。